

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	保健福祉部健康増進課		■担当係	医療連携係
■評価事業名称	岩手中部地域病院群輪番制事業負担金			
■事業開始年度				
■評価事業コード	040200 - 025	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	01 子育てと医療・福祉の充実した明るく健やかなまちづくり		
	■基本施策	03 健康づくりの推進と地域医療の充実		
	■施策	01 地域医療の充実		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	複雑な治療収容が必要な患者の夜間や休日の医療の確保を図る。毎夜間、毎休日を中部地域の5病院で輪番方式により救急患者診療にあたる。このうち、県立以外の3病院の事業費に対して岩手中部圏域の北上、花巻、遠野、西和賀の4市町で補助を行う。県立病院分は県で負担する。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成29年度事業計画	平成29年度事業量実績
01	岩手中部地域病院群輪番制事業負担金	市民	花巻総合病院、岩手医大付属花巻温泉病院、北上済生会病院による毎日の夜間及び休日の救急患者診療に要する経費への補助 補助金額:6,502,590円	花巻総合病院、岩手医大付属花巻温泉病院、北上済生会病院による毎日の夜間及び休日の救急患者診療に要する経費への補助 補助金額:6,502,590円

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費	6,382	6,335	6,394	6,503	
人件費	153	372	451	1,068	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	6,535	6,707	6,845	7,571	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
01	開設日数	365日	365日	365日	365日	365日開設
02	救急医療の利用割合	100%(2,261人見込み、うち救急車438人、その他1,823人)	100%(2,619人)	100%(2,483人、うち救急車搬送553人、その他1,810人)	100%(2,374人、うち救急車搬送519人、その他1,855人)	

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

04	開設日数コスト	17.9千円	18.4千円	18.6千円	20.7千円	フルコスト÷開設日数
05	受診者コスト	2.89千円	2.56千円	2.76千円	3.19千円	フルコスト÷救急医療の利用者の割合

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

二次保健医療圏における夜間及び休日の救急医療体制が確立できている。

問題点・課題等

実態として、各病院では輪番日以外の日でも救急患者を受け入れている。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

4. 市民生活・企業活動への影響

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
- 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

救急医療体制維持のため、必要最低限の補助は必要である。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了